

論説

道路教育論 (一)

井上弘道



道路教育論と云ふ論題は、われ／＼に對して一見不可解な感じを與へるやうに思はれる。もし道路と政治とか、道路と産業とか云ふならば、われ／＼はそれが内容してゐるところの意味を直に豫想することが出来る。それほど、われ／＼は道路と教育と云ふことに就いて無頓着である。道路教育と云ふ表現が通俗的でないと云ふことは、しかし決して道路教育の社會生活に於ける非重要性を立證するものではない。それは、われ／＼がその問題と實際に就いて餘りにも無知乃至は無自覺なりしことを證明する以外のなにもでもないだらう。

一般的ならざる論題を擧げた關係上、一應此れに就いての説明をする必要があるだらうと共に、ま

たには本稿に於いて取扱はれる問題の範圍に就いても一言斷つて置かなければならない。道路教育と云ふ場合に考へられることは道路に就いての教育と云ふ意味にも解せられるであらうがそれと共に、また一方道路の營む教育的機能をも意味してゐるとも解されます。例へば家庭教育とか學校教育とか云ふ表現法が、學校や家庭に就いての教育を意味してゐるとも解されるが——廣い意味に於いては確かにさう云へる——さらにまた、家庭や學校に於ける教育を意味してゐるとも解するところが出来る。一般的には後者の如く解釋した方がより慣用的である。そこで、私は道路教育と云ふ表現法が意味するところのものを、此の場合一般的使用法に従つて道路上に於ける教育、或は道路がはたらきかける教育、此れを要するに道路の教育的機能と云ふ意味に限定して主張を展開したいと思ふ。

そこで、先づ道路の教育的機能の現象形態を總論的に擧げて注意を喚起し、次に現代道路の教育的現象を分析して之を證明し、最後に簡單ながら何物かを世の識者に訴へることを許して頂きたいと思ふ。

道路は今更申すまでもなく社會的所産であり、またそれは社會的存在物である。それが、軍事的必要によりて新設されたものであれ、或はまた宗教的、或は産業的などの必要と利益のために布設され

たものであれ、その他種々なる目的のために改築されたものであれ、これらはすべて社會的所産と云ふ言葉で以つて表現し得られる。しかも、それらは社會的存在物として、その建設の最初の目的以外の種々なる目的と利益のために使用せられてゐる。例へば、産業道路として議會で豫算をとつた道路が、軍用のために、宗教のためにドライブのために充分なる役割を果してゐる。われ／＼は未だ教育道路改築費と云ふ名目で議會から豫算をとつた事實を知らないが、しかし道路が社會的存在物としてその最初の目的以外の諸目的にその效用性を發揮してゐることを肯定するならば、此の諸目的乃至は種々なる機能中には教育的なものがあつてもよかりさうに考へられる。

われ／＼は此の道路が社會的所産であり、社會的存在物であると云ふ前提下に、嘗つて道路自體が神でありしことを論證した。(本誌十一月號参照)このことは、道路が社會であると云ふ命題の肯定を是認するものである。確に、道路の性質上われ／＼は道路を道路社會と呼ぶことが可能である。ことに於いて、道路教育と云ふ言葉が道路社會教育と云ふ言葉の意味するものと同意的であることに氣付くことが出来る。即ち、私が取扱はんとする問題は、道路社會の營む社會教育を開陳することであるのだ。實際、道路は社會教育の生きた從つて最も効果的な道場であることに思ひを致さねばならない。

古來、道路は最も便利な且つ最も効果的な教育場として使用されてゐる。上代はさてをき、われわれが簡單に知り得る徳川時代に於いては——今日もさうだが——神輿の御通行は、人々に神意識を

マザ／＼と實感せしめてゐる。それは一種の宗教教育と呼ぶべき民衆乃至は社會教育ではあるまいか。しかも路上此の神輿のアパレル現象は、彼等にとつては生きた神の直接的活動なりと信仰せられてゐた。従つて社會から排斥せられるに値したところの家の前の路上では必ずこの神輿がアパレル出して、人々を畏敬せしめ彼等を社會化するに偉大なる貢獻があつた。此れも亦路上に於いて行はれた一種の社會教育であるとは云へないだらうか。

死刑の宣告を受けた重罪人は裸馬に乗せられて、徒刑場までその町々の道路を曳き廻はされた。そして、かくの如くして斷罪にあつた人間の首は、やはり路上にサラン首にされ道行く人の心を寒かしめた。上海でも漢奸は以後見せしめの爲めサラン首にされたとか。これらは、實に悲惨なそして殘酷な方法ではあるが、然し極めて效果的なそして強度な迫力をもつた民衆教育である。これは道路のみが果し得るところの最も強力な而も便利な社會教育と云ふことが出來よう。

そしてまた種々なる布告は街々に立札されることによつて民衆に知らしめられた。此の立札は法律政治道德その他の教育的機能を發揮した。それは、この立札が道路上の存在であつたからである。そして此の上から下への立札的布告の外に、下から上への意志表示の機關がやはりこの道路に於いて表現されたことを忘れてはならない。日本に暴政が比較的少いと云はれる原因の一つを提示するものとして落書が數へられてゐる。武士の支配に町民の批判を許さなかつた時代に於いては、たしかに此の落書は頭の良き日本人の發明した優れた方法であつたに違ひない。しかしそれと

ても天下の往來に於いて行はれたが故にのみ效果的であつたのではあるまいか。これまた一種のオヤジ教育であらう。

封建時代に於いては、領主そのものは領民とは縁遠い。彼がその領民共にその偉大なる力のものたることを平和的に示顯する一つの方法は、大名行列ではなからうか。この大名行列は威勢よく往徠に於いて行はれることによつて、その領主の威權を——領民共は土下座をして頭を土にすりつけてゐなければならぬのだ——領民の心底に強く教育せしめたのである。これに類したことがらは、今日に於いてもわれ／＼は目撃し得られる。市中行進は實に迫力的な教育である。建國祭行進メーデー、日蓮宗の行進、軍隊の進軍等々その他。かゝる示威運動とも呼び得られるところのものは、すべて道路上に於いてのみ行はれ、しかも道路上に於いてのみその成果を擧げ得るものである。かゝる方法に依つて、行進者と共に他に對し、建國精神の喚起がなされ教育がなされる。或はかゝる方法がそれ本來の行事よりもより以上に效果的であるのは、日蓮宗の行進である。お寺の中で讀經し或は説法をするよりも、かゝるウチワ太鼓の音勇ましく集團的な行進を行ふ方が、その本人と共にその他のものに訴へる處が甚大である。それは、行進を行ふ處が天下の往徠だからに外ならない。これも亦宗教教育と呼ぶに値する一つの社會教育ではあるまいか。

かゝる事例はこの外無數に擧げ得て、道路教育の現象形態を確認するの論據となり得る。これらはすべて、道路の演ずる教育的役割に外ならないのである。次に、かゝる道路のもつ教育的機能の一

つの分析的研究——種々なる方面からの分析が可能であるが今は一つの——を行ふことにしよう。

二

道路が社會的所産であり社會的存在物——これらの言葉が意味するものに就いては既述してをいた——であると言ふ前提の下に、われ／＼は此の一般に道路と云はれてゐるところのものを社會型態學的に二つの類型に分類することが出来る。勿論道路の分類を行ふ場合には、その立場々々に於いて如何様にでも分類し得られるであらう。例へば、その目的々見地からするならば、軍用道路とか産業道路とかに分類し得られるであらうし、或はまたその使用者の種類による區別をするならば、車道とかまた緩急車道とか歩道或は縁樹帶とか騎馬道とかにも分類することも可能であるし、更にまた行政的名稱によつて區別するならば、國道、特殊國道、府縣道、指定府縣道、市町村道等所謂道路法上から分類することが充分出来るであらう。しかし、かゝる分類法は私が今問題とする教育的見地からするならば、それは不充分であると云はねばならない。既述したが如き意味と性質とを道路に認めるならば、さらに言葉を換えて云ふならば、道路がその最初の建設の目的以外の目的のためにも效用を發揮してゐるが如き現象形態を是認するならば、全體的な立場から所謂社會的な場合から之を分類することが至當であるだらう。之を要するに、道路が教育の道場だと云觀點からするならば、それは社會的に區別される必要があり、しかもかゝる區別分類の仕方が最もよく道路のもつ教育的役

割を明瞭化するものであると考へる。それ故私は本稿に於いては道路を社會型態學的に分類する。かゝる分類法によれば都市型道路と農村型道路とに區別し得られる。前者は説明するまでもなく都會に四通八達してをり大部分都會人を常用的に運搬するものであり、後者は農村・山村と呼ばれる田舎の交通機關としてその大部分田舎人を運載するものである。われ／＼は大まかにかく道路を二分類することによつて、それらがそれ／＼相異つた種々なる教育的役割を演じてゐることを發見することが出来るのである。

農村型道路のもつ特性の一つとして、われ／＼は農村道路は都市のそれに比較して交通量が極めて少いと云ふことを擧げなければならぬ。此の交通量が尠少であると云ふことは人口問題から云つても當然に歸結し得られることであるが、しかしそれは只に數的問題のみに依存して現はれる現象ではない。それよりも即ち數的多少の問題よりも此の場合、さらに重要な事柄は農村と云はれるに値する農村の特異性とも云ふべき性質の問題が大きな理由をなしてゐることを忘れてはならない。それは農村と都市との根本的な差異性に由來するものである。先づ農村を形成してゐる人口は如何なる種類のものであるかに留意する必要がある。その大部分は、いなそれが農村と呼ばれるに値するためには絶對多數的に農業を仕事とする人口であらねばならない。實際、農村に於いては、商業を営む人口は數にして絶對的に過少である。われ／＼が交通量の問題に就いて云ふと、その處の一つは、農業と云ふ仕事の性質に由來する必然的交通量の尠少に就いてゐる。こゝに、その人

口數に於いて、またその人口質に於いて交通量の極めて少かるべき理由を認めることが出来る。

商人は機敏に動くことを以つて生命とする。勿論農民と雖も動くことを以つて唯一の生命としてゐることに變りはない。然も動く場所がそれ〴〵異り、動く性質がまた相異つてゐる。農民は日中は田畑でヒタイに汗して働き、夜は家内で夜なべ仕事にはげまなければならぬ。所謂詩人が歌つたが如く、朝には鋤を肩に、残月を仰いで田畑へ、夕には鎌をさげ星をいたゞき鳥より遅れて家路を辿るとかや。即ち彼等はその仕事の性質上、一日に同一個所を二回通行すればよいのである。茲に、その職業上必然的に道路が多く、交通量をいたさない原因を見出すことが出来るであらう。更に、このことはわれ〴〵にも一つの事實に留意せしめる。即ち最も教育的効果を擧ぐべき日中に於いては、殆んど少き交通量の數字を擧げてゐないと云ふことである。従つて、農村に於ける道路は、徹底的に教育的交通量が尠少であると云ふことが出来る。

次に、農村型道路の特性の一つとして擧げられるものは、此の少き交通量を構成する人口の質の問題である。これは前に少し觸れたところであるが、その人口が同質的であり不變化的であると云ふことである。毎日殆んど同じ人が往來し、同じ牛馬が道草を喰ひ、同じ小學生が通學してゐる。しかも、すべて農民と呼ばれる種類の人口である。勿論時には——或は毎日でもよい——魚屋や賣藥業者が行商することもある。まさしく彼等は同質ではなく異質である。しかし、彼等と雖も同じ人であつて不變化的である。従つて、農村道路を通行する社會は面識社會であると云ふことが出来る。

かゝる根本的な社會的な意味に於ける農村道路の特性の外に、まだ種々なるその特質を擧げることが出来るであらう。農業は商業の如くスピードを必ずしも必要としない。農民は、少くとも日本に於いては田畑に行くにもまたその他の用を達するにも、スピード的な乗物を利用しない。歩くことが即ち足が唯一の交通機關をなしてゐる。これらのことは、彼等がその生業の性質上スピードを必要としないものたることを立證するものである。彼等が悪路をも我慢し得るのはかゝる理由にも基くものであらうか。このことが、道路に關聯して農村人に特殊な道德的美徳を顯現せしめると共に、教育的効果に深刻度を増さしめる理由を提供する。さらに、農村に於ける道路は社會的に極めて單調である。しかしその兩側を構成するものは、美しき自然の風物である。都市のそれがすべて人工的なるに反して、農村のそれは極めて自然的である。これらのことも勿論われ／＼に對して、相異したそれ／＼の影響と呼ばれ得てゐる所謂教育的作用を及ぼすものたることは申すまでもないことである。

最後に、以上の特性の外に、或はそれらの特性の一特性としてわれ／＼が擧げなければならぬのは、農村は極めて保守的であり傳統的であつて、都市の如く進歩的或は解放的ではないと云ふことである。農村は文化の貯藏所であると云はれてゐる所以である。このことは、既述した特性の一つとしての不變化的と云ふ言葉の歴史的解釋である。この特異な農村的性質が、道路を通行する農村人の姿に於いて顯現されてゐるのであり、言葉を換へて云へば農村道路現象がかゝる特質を發揮して

あるのである。こゝにもわれ／＼は、農村型道路に於ける特種な道路教育現象の存在を想起させるに足る論據をもつのである。

三

しからは、かゝる特異性をもつ農村に於ける道路は如何なる教育的作用を行ふか。一言を以つて言へば、農村道路教育現象如何。農村に於ける道路は、都市に於けるそれのもつ教育的特に社會教育的機能の限界が狭少である。しかしこのことは、決して教育的役割の效果の過少を必ずしも意味するものではない。むしろ、農村に於ける道路が與へ得るところの教育的強度と徹底性とは、都市に於けるよりも大且つ深刻と云ひ得るであらう。農村道路の教育は都市のそれに比して、その性質單純である。それが單純であればあるだけ、それが同質的であればあるだけ、非常に強烈なものがあるのだ。教育的訴度は、その範圍の狭いのに逆比例して、深且つ強である理由を求めることが可能である。これらのことは、交通量の過少、それを構成するものの同質性と不變化性、面識社會性などの既述の農村道路の特性が道路教育の限界の狭少なる理由を提供すると共に、また同時にその道路教育の效果の強度大なることの理由をわれ／＼に與へるのである。

これは——この體驗が易者や乞食の存在と共に私をして本稿を草せしめる最初の大きな原因をなしてゐるのだが——私が小學生時代に農村型道路に於いて見撃した深刻な經驗なのであるが、そ

それは只に私の實感だけのことではあると云ふ處の一般的なことがらとして敘述することを許してもらひたい。われ／＼が子供時代に於ける農村では、警官、村長、學校の先生などと云ふ種類の人は實に立派な所謂偉い人の範疇に於いて考へられてゐた。ある日——たしか正月の休みの或る日であつたであらう——私たちの崇拜し畏敬してゐた小學校の先生が、數人の先生方と肩を組んで田舎の小さい惡路を一ぱいに漫歩してゐられるのに遭遇した。しかも、此の尊敬すべき先生方は正月酒に相當酔つてゐられたのである。しかし、此んなことは何んでもないではないか、人間として當然のことではないかとお考へになる人々は、それは農村の子供ではなく大都市の大人であるだらう。實際かゝる現象は農村のまた農村道路に於ける異色の非常にアトラクティブな現象なのである。子供であつた私は、それに就いて非常に深刻な悩みを抱かねばならなかつたことを追憶することが出来る。勿論、東京の道路に於いてもかゝる春はすかい式現象が存在し得るであらうが、農村道路ほどに深刻な影響は與へ得ない。此れの理の一つは、農村が面識社會であることに由來する。都市に於いてはそれがたれであるかわからない。

農村道路は變化或は異質に對して非常に鋭敏なのである。農村は既述の如く同質社會であり面識社會であるが故に、本來變化的たることを——理想型的でないことを——許さないとこの強力な拘束力がはたらいてゐるのである。それ故、人々が道路上に於いて演ずる處の姿態と、家庭とか學校とかに於いて所作する處とが異つてゐないのを本性としてゐる。かゝるが故に農村道路は、未熟

な社會人に對しては何ら新しい世界を展開するものではなくして、却て彼等の既知の世界を立證するに役立ちそれを強化するに役立つものと云ふことが出来る。これ、農村道路教育の範圍の狭少なることとその効果の強度なることの所以である。

さらにまた、茲に都市のそれに比較して顯著な現象とも云ふべきは道路とか橋梁とか云ふものが彼等の傳統的な神話とか團結とか云ふものを非常に強化すると云ふことである。それと共に、彼等の社會的道德生活と云ふものを強化する。路傍に立てられた道標はいわれをもつてゐる。それは村の素封家の篤志を物語るか、或は青年團の奉仕の結晶を物語るか、その他意味を村人は知つてゐる。此の一本の道標も此の農村人には意味的存在であり、従つてそれが反作用的に彼等やその子供たちにそれが意味するものを教育するのである。また路傍の松並木は、その昔そのまゝに立並ぶことによつて村人には昔の思出の追憶の材料を提供する。このことはまた逆に、過去の歴史を子供たちに教育することになり、故郷をなつかしきものにさせるのである。村はづれの橋も亦、村人にとつては意味的存在である。別れるとき旅立つとき、村人は此の橋のたもとまで見送つて別れをおしんだ。その橋を誰れが作つたのであるか、そしてまたどうして作られたのであるか、村人は知つてゐる。橋は物語るである。このことはとりも直さず、橋の演ずる教育的役割ではないか。悪路ならば悪路なりに、悪橋ならば悪橋なりに、それらは村人にとつてすべて意味存在として、彼等に極めて印象深い愛惜的對象を形成してゐる。茲に、われ／＼はそれらのもつ教育的機能を認め得ると云ふことが出来

るではあるまいか。

農村道路に於いては、荷車の後を押し難所を越えるに手をかすことが強要せられる。此れはスビ
ード的でないことにも勿論由るであらうが、面識社會的性質の致すところでもある。それは一つの
道徳であるが、さらに此の道徳現象は子供たちに對して生きた共同的精神の涵養の教育見本を提
供するものである。目上に對して、また同僚に對して、無言で或は隠れて通るほど道は幅大きく且つ人
通りは多くない。必然言葉を交はすことが避け得られぬことになる。道を譲り合ふことも必要に
なつて來る。かゝる道徳的な訓練は、農村道路に於ける教育に負ふところ甚大であると云はねばな
るまい。

之を要するに、農村に於ける道路教育は、その限界は狭少であるが、その効果は強度であり確實性と
徹底性をもつてゐると云ふことが出來よう。(つゞく)